雜　　報

學術集談會

12月19日(木)午後1時カラ本所講堂ニ於テ學術集談會ガ催サレ，演題ハ次ノ通リデアツタ。

1. 黴毒「スピロヘータ」ト「フランベジア．スピロヘータ」トノ比較　　瀧澤道夫君
2. 流行性腦炎ノ血清療法ニ關スル動物實驗(第一報)　　川喜田愛郎君
3. 結核菌及ビ實驗的結核感染海猽ニ對スル「フローレスセン」系色素ノ光力學的作用ノ影響　　井上喜市君
4. 皮下種痘ヲ基調トスル混合免疫ニ就テ(綜説)　　矢追秀武君

人事異動報告

昭和16．1．9　現在

發令	辭令	官職	氏名
11．30	依願傳染病研究所ニ於ケル病理學殊ニ癌研究業務囑託ヲ解ク		中原和郎
12．2	陞敍高等官四等	助教授	羽里彦左衛門
4	免兼官	技師	野邊地慶三
12	任軍事保護院醫官敍高等官六等	技手	橋浦友義
17	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		林幹子
17	傳染病研究所業務ヲ囑託シ手當一ケ月金七拾圓給與		鈴木大之亮
16	敍正六位	助教授	羽里彦左衛門
28	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		岩崎龍郎
28	右同		佐々木秀輿
28	任傳染病研究所技手給九級俸		米倉秀雄
28	傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		右同人
28	依願免本官	技手	江崎唯人
1．6	研究生入學許可		右同人

雜　　報

佐藤教授送別會

興亞建設ノ非常時ニ當リ上海自然科學研究所所長トシテ重要地位ニ榮轉サレル佐藤秀三教授ノ送別會ガ1月16日傳研地階食堂ニ於テ開催サレタ。先ヅ佐藤教授カラ悲壯トモ申上グベキ決意ノモトニ赴任スル旨ノ御話ガアリ。滿堂寂トシテ聲ナク之ヲ傾聽シタ。長與前所長、二木、石原、兩先輩始メ多數ノ先輩ガ出席サレ盛會デアツタ。同教授ハ19日東京驛カラ富士號デ赴任サレタ。

春秋會歡送迎會

カネテ大陸ニ赫々タル武勳ヲタテ目出度凱旋サレタ醫局ノ中村敬司君、米倉秀雄君、第三部ノ金澤謙一君ノ歡迎ヲ兼ネ永ラク傳研ノ爲メニ御盡クシニナリ此度御辭メニナツタ事務ノ稻川留吉君、醫局ノ岡西順二郎君、第二部ノ小栗一好君、第五部ノ中原和郎君、岩崎龍郎君及ビ渡邊漸君等ノ送別會ガ2月7日傳研食堂ニ於テ開催サレタ。三田村會頭ノ辭ニツイテ田宮副會頭司會セラレ盛會デアツタ。御辭メニナツタ稻川君ハ兄上ノ會社ニ實業家トシテ、岡西君ハ今後結核ニ小栗君ハ熊本醫大衛生學教授トシテ、中原君ハ專心癌研理研ニ、岩崎君ハ結核研究所ニ、渡邊君ハ平壤醫專病理教室ニ夫々御榮轉サレルノデアル。因ミニ渡邊君ハ2月9日、小栗君ハ2月10日ニ夫々東京驛カラ富士號デ任地ニ出發セラレタ。

學術集談會

去ル1月21日(木)午後1時カラ本所講堂ニ於テ學術集談會ガ催サレ、演題ハ次ノ通リデアツタ。

1. Azin, Ozazin 系ニ屬スル二三色素ノ實驗的結核ニ及ボス影響ニ就テ

須賀井忠雄君
大林容二君
諏訪紀夫君

2. Indigo sulfonat ノ實驗的結核ニ及ボス影響ニ就テ

須賀井忠雄君
大林容二君
諏訪紀夫君
野上鐵雄君

3. 日本流行性腦炎病毒デ人工的ニ感染セシメタ「シナハマダラ」蚊 (Anopheles hyrcanus sinensis) ノ傳播力ニツイテ

三田村篤志郎君
北岡正見君
中里朝雄君
清水盈行君

4. 日本流行性腦炎病毒デ人工的ニ感染セシメタ蚊ノ傳播力ニ及ボス飼育溫度ノ影響ニツイテ

三田村篤志郎君
北岡正見君
渡邊漸君
水原敬介君
中里朝雄君
清水盈行君

5. 昭和14年11月カラ15年10月迄ノ期間中ノ岡山市ニ於ケル蚊ノ出現消長トソノ日本流行性腦炎病毒保有ニツイテ、特ニ蚊ノ毒性ト流行トノ關係ニツイテ

三田村篤志郎君
北岡正見君
渡邊漸君
天神智君
水原敬介君
中里朝雄君
清水盈行君

6. 偶發性二十日鼠腦脊髓炎ノ感染經路ニ關スル研究、殊ニ健康動物ノ腸內ニ於ケル病毒ノ出現ニ關スル實驗

三田村篤志郎君
北岡正見君
天神智君

7. 灰白脊髓炎ノ蚊ニヨル傳播ニ關スル實驗

三田村篤志郎君
北岡正見君
渡邊漸君
草野信男君

8. 腺熱ノ研究

太田原豐一君
崔在圭君
山內俊次郎君
本多勇君

9. 魚肉ノ貯藏ニ就テ(綜說)

遠山祐三君

學友會へ寄附

一金18圓25錢也　西下止夫君
一金17圓25錢也　入田善保君

人事異動報告

昭和16. 2. 10現在

發令月日	辭令	官職	氏名
1. 10	研究生入學許可		道又喜四郎
1. 11	賜本俸六級俸	教授	佐藤秀三
〃	依願免本官並兼官	教授兼厚生技師	佐藤秀三
1. 18	研究生入學許可		松岡辰男
1. 29	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		入田貞義
1. 31	任熊本醫科大學教授敍高等官六等	技手	小栗一好
2. 1	兼任傳染病研究所技師敍高等官三等	厚生科學研究所教授	野邊地慶三
2. 8	依願免本官	技手	渡邊漸

「実驗医學雜誌」25巻，380 ~~381~~ —381. 1 (3号)
25巻 380 (1941)

雜　報

I. 醫局羽田正一君ガ去ル2月25日東京驛カラ富士號デ同仁會南京診療班ニ赴任セラレタ。

II. 傳研所内ニ鎭座マシマス稻荷神社ノ祭典ガ2月27日午前11時春秋會ノ主催ノ下ニ施行セラレタ。

學術集談會

2月20日(木)午後1時カラ本所講堂ニ於テ學術集談會ガ催サレ，演題ハ次ノ通リデアツタ。

1. 「パラチフス」X菌及ビ「パラチフス」Y菌(箕田氏)ノ細菌血清學的研究
　　龜山良一君
2. 狂犬病病毒ノ培養ニ就テ(第3報)
　　金澤謙一君
3. Leptospira grippotyphosa ノ免疫學的地位ニ就テ
　特ニ秋疫 Leptospira トノ關係ニ就テ
　　北岡正見君
4. 「ズルファピリヂン」劑ノ實驗的「インフルエンザ」病毒症ニ對スル效果ニ就テ
　　矢追秀武君
　　梶原秀信君

○學友會ヘ寄附金

金24圓80錢	細谷省吾君
金17圓92錢	大橋久治君
金7圓96錢	小島三郎君

人事異動報告

昭和16. 3. 4現在

發令月日	辭令	官職	氏名
1. 31	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		曾良忠雄
2. 22	研究生入學許可(食品防疫室)		小南ミヨ子
2. 24	依願免本官		羽田正一
3. 1	研究生入學許可(一研)		大河原周

『細菌學實習提要』ノ改版

昨年來品切ニナツテヰマシタ學友會編「細菌學實習提要」ノ改版ハホヾ完成ニ近ヅキ，四月下旬カ遲クモ五月上旬マデニハ刊行サレル豫定デス。

殆ド全般ニ亘ル改訂ト更ニ新ナ增補ガ加ヘラレテ，約500ページノ全ク面目ヲ一新シタモノヲオ目ニカケルコトガデキル筈デス。

定價ハ金五圓也，送料ハ(書留料トモ)內地21錢，鮮滿支34錢デス。

用紙ノ配給ノ關係デ印刷部數ガ極端ニ制限サレテヲリ，增刷ノ見込ニツイテモ確實ナコトハ申上ゲラレナイ狀況ニアリマスノデ，御希望ノ方ハ前金ヲ添ヘ至急オ申込ミ下サイ。

御申込順ニ發送イタシマス。

田中哲之助論文「くさりへび毒ニ就テ」第二報 正誤表

實驗醫學雜誌．第25卷．第1號．89—113頁

頁	行	誤	正
89	下ヨリ 4	測定シタガ	測定セルニ
,,	,,	免疫シタモノ8匹	免疫シタモノハ8匹
90	第2表中	2MLD. 4MLD	2×MLD. 4×MLD
91	上ヨリ 5	へさりへび毒	へさりへび毒
91	下ヨリ 8	Trimere_	Trimere-
93	第5表中	(MLD ノ比較)	(皮下注射時ニ於ケル MLD ノ比較)
94	第6表中	抗 Lecithioase	抗 Lecithinase
96	上ヨリ 5	共通性デアルカ	共通性ガアルカ
,,	,,	試ミタルガ	試ミタガ
,,	上ヨリ 11	25×. 100×=	25×. 50×. 100×=
98	上ヨリ 8	(B. Welchii)	(　　) ヲ抹消
,,	第11表中	極行輕度	極メテ輕度
101	上ヨリ 5	清療效果	清ノ治療效果
102	第20表中	皮上 | 4 c.c.	皮下 | 4 c.c.
106	下ヨリ 11	たいこぶら	たいわんこぶら
107	第26表中	Prontosil S	Prontosil S.
113	5)	Slotta W	Slotta u
,,	14)	岩漸	岩瀨

田中哲之助論文「蛇毒ヲ以テセル大動物免疫ニ關スル研究」正誤表

實驗醫學雜誌．第25卷．第2號．159頁—177頁

頁	行	誤	正
160	上ヨリ 8	免疫作用	免疫作業
162	上ヨリ 16	是等ノ	量等ノ
163	上ヨリ 7	「チフテリア」	「ヂフテリア」
164	下ヨリ 9	Alumtoxoid ノ約	Alumtoxoid 法ノ約
168	第7表右側	沈澱 沈(1)＝合併 $(NH_4)_2SO_4$ 飽和液 34c.c.	$(NH_4)_2SO_4$ 云々以下全部ヲ上清 100c.c. ノ下ヘ移ス
170	上ヨリ 16	生下	皮下
175	上ヨリ 19	100 AF	100 AE
176	文獻 21)	昭和9　.	昭和9年.

25巻 (4号) 1941

雜 報

學術集談會

3月20日(木)午後1時カラ本所講堂ニ於テ學術集談會ガ催サレ，演題ハ次ノ通リデアツタ。

1. Weld 溶血毒素ニ就テ

{新井三九雄君
{宮崎正之助君

2. 各種細菌ノ好氣的解糖作用中ノ不反應性電極ノ電位變化ニ就テ

福見秀雄君

3. 實驗的青酸加里中毒(緬羊)ニ因ル腦脊髓變化ニ就テ

山極三郎君

人事異動報告

昭和16. 3. 28現在

月日	辭令	官職	氏名
1. 4	研究生入學許可		安尾義人
1. 10	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		早川清
1. 15	研究生退學許可		稲富瑞穂
2. 15	兼任厚生技師敍高等官三等	所員教授	田宮猛雄
2. 28	任傳染病研究所技手給六級俸		永井吉郎
2. 28	傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		永井吉郎
2. 28	傳染病研究所業務ヲ囑託シ手當1ヶ月金50圓給與		横森由伸
2. 28	解雇		横森由伸
3. 6	傳染病研究所業務ヲ囑託シ手當1ヶ月金50圓給與	正八位	野田省吾
3. 6	解雇		野田省吾
3. 14	歸朝	在外研究員助教授	石井信太郎

第二十五卷第二號 山田貢原著「精製痘苗ト赤痢わくちんトノ混合免疫ニ就テ(動物實驗竝ニ人體實驗)ノ誤植訂正

頁	個所	誤	正
133	第1表5.0ト6.0ノ間	細線	太線
137	第5表{免疫群I(混合). 免疫血清番號1 血清稀釋度100ト200ノ間	細線	太線
137	同{同. 免疫血清番號5 血清稀釋度200ト400ノ間	細線	太線
139	第9表 免疫群	1	I
139	第9表{免疫群II. 免疫血清番號17 血清稀釋度500ト1,000ノ間	細線	太線
139	第9表{免疫群II. 免疫血清番號18 血清稀釋度500ト1,000ノ間	太線	細線
140	第11表 對照$\frac{1}{30}$白金耳ト$\frac{1}{40}$白金耳ノ間	太線	細線
149	21行目	皮下ニ	皮內ニ
150	第22表(4週間目ノ血清)免疫群	II(單獨)	III(單獨)
156	第28表 3膠水再注射{經過日數2週間後 家兎番號48 血清稀釋度200ト400ノ間	細線	太線
157	四行目	第29表及ビ第30表ニ示ス	第29表ニ示ス
157	第29表 痘苗稀釋度	免疫血清 1:1	(5倍稀釋免疫血清) 1:1

25巻(5) P594
昭和16年

雜 報

學會 花ノ4月ハ研究ニ沒頭スルモノニトツテモ．1年間苦勞シタ業績ヲ發表スル樂シイ學會ノ季節デアル。吾々研究所カラモ銃後ヲ守ツタ人々ガ多クノ業績ヲ發表スベク微生物學會(熊本醫大)．傳染病學會結核病學會(九州帝大)及ビ病理學會．寄生蟲病學會(大阪帝大)藥學會(東京)等ニ多數出席シタ。

傳染病研究所學友會懇親會 微生物學會會長太田原豐一教授．先般吾々研究所カラ赴任サレタ小栗一好教授及ビ地元ニ開業サレテ居ル吾々ノ先輩鈴木猛及ビ上野鎭也兩氏等ノ御盡力ノ下ニ．4月4日午後5時ヨリ熊本市新茶屋ニ於テ盛大ニ開催サレタ。今度ノ會ハ三田村新會長ヲ迎ヒ會員ガ多數出席サレタ爲メ豫定ノ會場ヲ滿シ廊下ニマデ溢レル程盛會デアツタ。殊ニ宴會半バニシテ北研ノ北島多一會長及ビ北里善次郎博士ガ吾々傳研ノ會ニオ見エニナツタコトハ特筆ニ値シタ。

應召 第三研究部ノ村江通之氏ガ應召セラレ去ル4月26日午後9時10分東京驛カラ○○陸軍病院ヘ出發セラレタ．幸アレカシトオ祈リスル次第デアル。

學術集談會

去ル4月24日(木)午後1時カラ本所講堂ニ於テ學術集談會ガ催サレ．演題ハ次ノ通リデアツタ。

1. 太原箕田菌ノ變異ニ關スル研究(第一報)
   栃木武營君
2. パイフエル氏「インフルエンザ」菌．百日咳菌．淋菌．軟性下疳菌ノ液狀培養ニ就テ
   安藤正一君
3. 「ヴイブリオンセプテイツク」ノ毒素產生ニ關スル研究
   飯高孔君
4. 肝臟血液寒天ニ於ケル溶連菌ノ溶血態度ニ就テ
   留岡展男君
   金澤謙一君
5. 單純性疱疹病毒ニ關スル二．三ノ所見
   金澤謙一君
6. 培養組織內ノ流行性腦炎ウイールスニ對スル免疫血淸ノ作用ニ就イテ
   川田喜愛郎君
   田崎忠勝君
7. Leptospira canicola ニ關スル犬ニ於ケルソノ後ノ成績
   北岡正見君
8. 緬羊腰麻痺病ニ於ケル腦脊髓ノ病理解剖學的竝ニ組織學的所見ニ就テ
   山極三郎君

1金56圓33錢也 **學友會ヘ寄附** 第87回講習生諸君

人事異動報告

昭和16．5．1現在

月日	辭令	官職	氏名
3．31	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		井上健
4．1	染傳病研究所業務ヲ囑託ス		山本正
			黑須正夫
			美澄義明
			宮城普男
			安江安宣
			中山泰助
			巖田豐
			田中英夫
			青木利彦
			內田達次
			江藤武夫
4．15	任東京帝國大學教授敍高等官三等	技師	長谷川秀治
4．15	本俸入級俸下賜 補傳染病研究所員	教授	長谷川秀治
4．15	所員職務俸金千圓下賜	教授	長谷川秀治
4．21	研究生入學許可		爲政修
4．23	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		黃當時
4．28	研究生退學許可		笠原順一郎

実験医学雑誌 25巻 p.729—730 1941年 (6号)

25巻

雜　報

學術集談會

5月15日(木)午後1時カラ本所講堂ニ於テ學術集談會ガ催サレ、演題ハ次ノ通リデアツタ。

1. 「ヂヒドロペレゾン」ノ合成研究「オキシヒノン」類ノ研究第七報)　山口一孝君
2. 絲狀菌 Penicillium spiculisporum Lehman ノ代謝產物「スピクリスポル」酸ノ熱分解成績體ノ構造ニ就テ　龜田幸雄君
3. 鹽素消毒ニ關スル知見補遺　安部胤一君
4. 赤痢駒込B菌簇ノ細菌血清學的研究　遠藤博君
5. 慢性化濃竈ヨリ檢出セル變形菌ノ生物學的免疫學的性狀(第一報)　林阿安君
6. 「ヂフテリア」被働性並ビニ能働性免疫ニ關スル研究　永井吉郎君　中村精子君　久保田久君
7. 「リケッチア・オリエンターリス」ノジンサー氏斜面寒天培養ニ就テ(豫報)　金澤謙一君
8. 馬ノ流行性腦脊髓炎ノ自働免疫ニ關スル實驗　域井尙義君　山中富雄君　北岡正見君　佐藤久藏君　渡邊金藏君

學友會へ寄附

金58圓41錢	河盛勇造君
金26圓65錢	押鐘篤君
金9圓44錢	細谷省吾君
金26圓45錢	西下止夫君
金9圓75錢	中村敬三君
金29圓48錢	五十嵐正治君
金160圓40錢	山田貢君

人事異動報告

昭. 16. 6. 1 現在

月日	辭令	職	氏名
5. 1	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		和田祐
1	陞敍高等官三等	技師	矢追秀武
6	研究生入學許可(第七研究部)		元文伊一郎
9	敍勳四等授瑞寶章	教授	細谷省吾
15	傳染病研究所業務ヲ囑託シ手當一ケ月金七拾圓給與		田中哲之助
15	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		山本正
15	同		黑須正夫
22	研究生入學許可(第三研究部)		永島道郎
24	任東京帝國大學助教授 敍高等官六等	技手	北岡正見
24	同	同	川喜田愛郎
24	本俸十級俸下賜 補傳染病研究所員 所員職務俸金參百五拾圓下賜	助教授	北岡正見
24	本俸十一級俸下賜 補傳染病研究所員 所員職務俸金參百五拾圓下賜	助教授	川喜田愛郎

実験医学雑誌 25巻 p881—894 1941年 7号

傳研創立42周年記念會記錄

記　念　式

1. 君ケ代二唱
1. 宮城遙拜
1. 出征軍人に對する感謝並びに戰歿將士慰靈の爲め默禱
1. 所長式辭
1. 來賓祝辭　　林　春雄，　北島　多一

昭和16年6月1日
傳研講堂に於て
午前10時開式
午前10時半閉式

所長式辭

我が傳染病研究所は，御承知の如く，明治25年11月30日，大日本私立衞生會の附屬として設立された傳染病研究所に其端を發して居るのであります。それは，今を去る丁度47年の昔のことであります。本所が今日の如き國立研究所となりましたのは，42年前の明治32年3月31日であります。更に，本所が芝區愛宕町から只今の白金臺町に移轉致しましたのは，明治39年6月でありまして，この6月に因みまして，今1日を以て本所の創立を記念致すことに，昭和12年以來定めて居るのでございます。

本日，玆に，當研究所に關係の深い多數の方々と共に，この創立記念を祝することを得ますのは，御同慶の至に存ずる次第であります。本年は，聖戰第5年，時局益々重大な秋に當り，當所も現に多數の從軍將士を戰場に送つて居るのでありますが，吾々はこの機會に於きまして，それ等の將士が，武運長久で使命を達成されますことを，念願致す次第でございます。

今日の記念日に當りまして，吾々の胸に溢れますることは，故北里柴三郎先生及び青山胤通先生を始めとし，多數の吾々の先進學者が學界に遺された大きい足跡と，本所のために盡されました限無い功績とに對する，衷心よりの尊敬と追慕と感謝の念でございます。傳染病研究所の今日あることが，偏へに，是等先進者の努力精進の賜ものであることは，申す迄もないのであります，剩さへ，今日は，我が研究所發達の歷史の活きたページであり，或はまた我が研究所の誇とする幾多の世界的業績の創作者でありまする，元の所長林春雄先生を始めとし，元の本所幹部であられました北島多一，宮島幹之助，志賀潔，二木謙三，石原喜久太郎，內野仙一，西澤行藏，城井尙義等の諸先生，並びに故八木澤正雄及び故山田信一郎兩先生の御夫人等の御參列を忝う致しまして，吾々現職員一同の喜びと感謝は之に過ぐるものがないのでございます。

この大きい喜びと感謝と共に，吾々現職員は，吾々に課せられた責務の如何に大きいかを，痛感せずには居られないのであります。吾々は先進者から貴い傳統と偉大な設備とを承け繼いだのであ

りますが、これ等の遺産は、それが如何に高貴なものでありましても、それ自身、何ものをも産み出さないのでありまして、たゞ、吾々の學ミ德ミ努力ミによつて新しく造り出された業績のみが、傳統の譽を保持するに足るのであります。さうして、先輩からの遺産である、この傳統を、更に更に、大きく且つ麗はしくして、之を吾々の次代の者に讓るこゝこそ、吾々の果すべき責務であります。吾々は、今後、一身を獻げ、力を致し、心を一つにして、この重い使命を成就し、以て皇運を扶翼し奉るミ共に、世界の學界に寄與致したいミ念願する次第であります。(拍手)

祝　　辭　　林　春　雄氏

今日は、傳染病研究所の記念式が六月一日ミ定まつてから、第5回の記念日に當るさうであります。私は、今迄御招待を蒙つて居つたかミ思ふのでございますが、極めて近い所に居りながら、ツイ御無沙汰して居つて、本日始めて御伺ひした次第であります。

當所は年ミ共に發展致されまして、學界に於ては、今日世界的の位置を占めて居るのであります。是はもう私が申上げるまでもないこゝであります。現今、三田村所長の下に、俊才雲の如く集つて居られます。其方々が日夜御勉强になるので、洵に國家の爲に、慶賀すべきこゝであるミ、考へるのでございます。申す迄もなく、今日は、所謂聖戰第五年を迎へまして、我が國力は遠く、所謂、東亞共榮圈内に擴がつて居るのであります。この所謂、東亞共榮圈内には、諸君の力によつて解決すべき問題が、非常に澤山殘つて居るのであります。卽ち、南、或は北、或は中部に於て、まだ、所謂未開の地が隨分澤山ありまして、色々な傳染性の疾病及び、其他の疾病のために、その住民が苦んで居るのは勿論、その一部分は内地にまで及んで、傳播の虞のあるものも尠くないのであります。それで、我國の國民を、それ等の傳染病から救ふのは勿論、進んで東亞共榮圈内に於きまして、その多數の住民、卽ち吾々の同盟の隣人であるミころの東亞共榮圈内に住つて居る住民の健康を增進する爲に、それ等の病を豫防し、或は之を治療するミ云ふ如き研究は、皆樣の手を俟つて居る次第であります。私共は、皆樣がこの色々な難問題を必ず解決せられまして、我國は勿論東亞共榮圈内に住む數億の亞細亞民族の爲に幾多の業績を擧げられるこゝは、疑ひないこゝミ信ずるのであります。私は諸君の御健康を祈りますミ共に、學界に於ける御奮鬪を希望して、この席を下りたいミ思ひます。(拍手)

祝　　辭　　北　島　多　一氏

本日は、當所の記念の式典に列する光榮を得まして、洵に有難く存ずる次第でございます。只今、三田村所長の率直明朗なる御式辭を拜聽して居りまして、私ミしましては、たゞ一片の形式的の祝辭を申上げるのも、聊か物足りないやうな感も致しまするので、率直に、昔のこゝを追憶して、一言申述べたいミ思ひます。

それは、先程所長から申された通りに、傳染病研究所は、私立時代もあり、さうして後に國立ミ

なり、當所に、大きい研究所を建設して、移つたのでありますが、其間北里先生は非常に御苦心をされて、この研究所が成り立つたのでありまして、此處へ參りましたときには、たゞ一つの學科として、これだけの大きな設備をし、さうして、世界の三大研究所の一つとして、獨逸のコッホの研究所、佛蘭西の巴里のパストールの研究所と並稱せられるやうになつて、洵に隆々たる有樣になつたのでありますが、其間に於きまして、北里先生の御苦心は非常なものであつたのであります。詰り、研究所は北里先生あつての研究所であつたのであります。然るに、大正三年十月に、移管問題が起りまして、其時の政府は、行政整理、文政の統一といふことを名として、移管を決行されたのであります。これは北里先生の何等の諒解もなくして行はれたのであります。學術の尊嚴を瀆し、學者を無視するところの暴擧として、先生は非常に憤慨されて、さういふ政府の下では働けぬと云うて辭職を決行されたのでありまして、吾々、その時の所員は、幹部は殆んど一人の異論なく、總て辭職致した次第でございます。勿論その時には當時の衞生局長である中川さんだとか、或は文部省の方では濱尾新さんだとかいふ方々が、非常に色々骨を折られて、何とか妥協するといふか、色々の方策を考へられたのでありますが、一度決せられたことは後へ歸る譯に參りませぬ。遂に其處に大きい變動が來た次第でございます。其時のことを考へますれば、吾々、今日と雖も、感慨無量でありまするが、併し既に二十有餘年を過ぎ去りまして、內閣も幾度か變動しまして、先づ今日に於ては、何等もう今日の人に對して怨もなければ、今では、私等は光風霽月の感を有つて居るやうな次第でございます。吾々の反對を致しましたと云ふことは、この學界のためには、却つて宜かつたんではないか、ごうも、兎角、科學といふものに對する認識が不足であつて、學者に對しては洵に無視するやうな態度が多かつたのでありますが、今日と雖も、まだ多少さういふ傾がないでもないと思ひますが、さういふ點に對して、大に警告を與へたといふことは、確に效能があつたと考へて居るのであります。またさういふ事があつた爲に、初めの豫定と違ひまして、この研究所も內務と文部の所管になり、さうして獨立した立派な研究所として、今日迄、ズツト續けて來て參ることになつて居るのでありまして、當初の考とは大變變つて來て居るのであります。さうして、豫算も年々增額され、研究の施設も、段々整つて行きまして、また大震災の後には、此處に、斯くの如く立派なる、研究所に改造されて、大いに發展をされたやうになりました。之を見まして、私等は洵に喜んで居る次第でございます。私等は、此方を辭してからも、北里研究所を設立して、今日迄續けて行つて居りまするが、斯くの如く同じやうな研究所が出來て、お互に相競うて研究をするといふことは、これも亦學界に取りましては、大變宜いことであると考へて居ります。研究所といふやうなものは、いくつあつても、今日は宜いやうな時代になつて來て居りますので、誠に、その點から申しますれば、祝しても宜いのぢやないかとも思ふやうな次第であります。殊に、現今は、御存知の通りに、科學といふことの熱も、段々盛になり、また、斯ういふ研究に依つて、日本の將來といふものは、益々盛にして行かなければならない時代になつて居るのでありまして、斯ういふ時節に於ては、この研究所といふものは、お互に協力して、學界の爲に、盡さなければならぬと思うて居ります。殊に、現今の

三田村所長は實に學者の典型とも謂うて宜い率直なる紳士であられるので，今日，私等が此處に參りまして，斯うやつて，打融けて御話もして行けるといふことは，洵に，私としましても，これは非常に喜ばしいことで，どうぞ，將來も，この研究所が益々盛になつて，さうして，お互に協力して，學界の爲に盡して行きたいと，斯ういふ風に考へて居るのでございます。將來の御發展を祝し，聊か之を以て御挨拶と致したいと思うて居ります。(拍手)

記念午餐會

階下食堂に於て（午前11時—正午）

長谷川所員　只今から甚だ瑣やかなる宴會でありますが茲に宴會を開催致すことになりまして私が宴會係として一寸簡單に御挨拶を申上げます。

本日は洵に喜ばしき私共の研究所の記念日と致しまして斯くも多數に御來會下さいました事は宴會係と致しましても喜んで居る次第でございます。特に本日は吾々が平素非常に尊敬致して居りますところの大先輩が斯くも多數に御出下さつたことは本研究所と致しまして洵に嬉しいことでございます。殊に北里研究所の最高幹部の方々が多數御出で下さいまして先刻も北島所長から私共が子供の時に伺つて居る移管問題等の御話を承りまして，はつきりは判りませぬが色々の事があつたといふことを伺つて昔噺のやうに伺はれますが，それに就ては北島先生が全く光風霽月の氣持で此記念會に列つて居られるといふことを承りまして如何にも嬉しい和かな氣持でございます。どうぞ吾々孫達にも等しい連中を今後益々御指導して頂く事を偏に御願申上ます。

そこで宴會係が長く申上げては失禮でありますから之から，三田村所長の御挨拶を願ひまして，色々大先輩方の御高說を承りたいと思ひます。(拍手)

三田村所長　只今長谷川君から御挨拶がありまして，私はそれに附加へる何事も有つて居らないのでありますが，極く簡單に御挨拶を致します。

只今長谷川君からも御話のありましたやうに，今日は，日曜日にも拘はりませず，この樣に澤山の方が，此處に御集まり下さいまして，お互に喜びを俱にすることを得まするのは，私共の大なる欣びとするところでございます。殊に傳染病研究所創立以來の幹部であられました御方々は，長與又郎先生を除きまして，今日，全部，此處に御出席を蒙りましたことは，吾々にとつて，此上もない喜びであるのであります。古い皆樣の御姿を見るだけでも，吾々は，創立以來の我が研究所の歷史と苦心とを，眼前に見るやうな氣持が致しまして，感激の念に學ぶところが非常に多いのでございます。それにも拘はりませず，今日差上げましたものは，誠に粗末なものでございまして，恐縮に存じて居るのであります。併し，これも，當面の時勢のことを思ひまするとと，已むを得ないことでありまして，私達は，今日の會を催しますについて，食料店の方へ米を供給致しまして，その米で賄ひ得るだけの御客を，今日，此處に致したやうな次第でございまして，其意味に於きまして，洵に不束で足りない所は，御容赦を御願ひする次第であります。尙，今日，此處に御見えになつてゐらつしやいます方以外にも，澤山の方を御招待申上げたかつたのでありますが，今申上げたやうな，食事の關係もありまして，それも出來ませぬので，また來年に致したいと存じて居る次第であります。先程も，北島先生から，傳染病研究所から北里研究所が出來たのは，結局，學界の爲に慶賀すべき結果を招來したと云ふ御話がありました，私も其點に於ては，全く同感でありまして，曩には北里研究所が出來，また新しくは，大阪に微生物病研究所が出來まして，我が傳染病研究所が段々擴がつて行きまして，御國の爲に御奉公することが出來まするのは，實に嬉しいことであると存じます。先程北島先生の御話になりましたやうに，私達は，全く心を虛にして，相協力して，學界の爲め，國家の爲に，盡瘁致したいと思ふ次第であります。之を以て御挨拶と致します。(拍手)

長谷川所員　本日御出席下さいました先輩の諸先生の皆樣から吾々は御話を承りたいと云ふ熱望を有つて居

りますけれども．既に．北島先生並に林先生からは承りましたので．北里研究所の宮嶋幹之助先生に御願ひ致したいと思ひます。

宮嶋幹之助先生 私は只今北里研究所に勤めて居る宮嶋でありますが．只今幹之助と云ふ御紹介でありますが．幹之助ではない幹之助と云ふので(笑聲)．幹之助と間違はれるので甚だ迷惑するのであります。例へば私が獨逸へ參りましたとき「パスポート」の方には幹之助と書いてあるけれども．銀行の方の名前には．幹之助と書いてあつて．金が引出せないで．非常に困つたことがあります。どうか御間違のないやうに御願ひ致して置きます。

先程．三田村所長なり．北島先生なりから．御話のありました通り．この傳染病研究所は北里先生のつくられたものでありまして．之が國立になりました當時には．まだ芝の愛宕町の小さな建物の中に皆働いて居つたのであります。其後．國立になりまして．段々と．擴張致し．遂にはこの臺町に移りまして今日見るやうな立派な研究所が出來．皆さんが活動して居られるといふことは．吾々古い時代に於て研究所に居つた者と致しては洵に嬉しく思ふのであります。併しながら．先程．北島先生の申された通り．吾々元の研究所に居つた人間は．非常な憤慨心を有つて居りまして．此傳染病研究所には眼の黑い内は足を入れないといふやうな心を持つて居つたのであります(笑聲)。併し左樣なことを申して居つても日本の學問の爲にもならず．また若い人などの爲にもならぬと云ふやうなところから．段々考へまして．何年でありましたか一寸年は忘れましたが．私が歐羅巴へ參つた時に．非常に評判になつて居つた結核の治療劑が發見され．どうしても之は日本でも研究しなければならぬと云ふので．私はそれを造つた人に談判致して其標本を貰ひ受け．又その「リテラツール」やなにかも携へまして日本に歸つて參りました。それがメルガードの拵へた「サノクリジン」といふ結核の治療藥でありまして．若し果して之が有效なものであるならば日本の結核の爲には非常に宜いものでありはせぬか．私も專門外であつたので．それを持歸つて北島先生や今は物故されましたが秦副所長に相談を致し．それから段々話を進めまして當時の傳染病研究所の所長であつた長與博士等と相協りまして．民間の金持から金を出して貰つて．さうして傳研．北研の聯合研究と云ふ事に致し．今日此處に御列席になつて居る中には其事業に直接携はつて非常な御盡力になつた方もありますので．私共は非常に好い結果を齎らすだらうと思つて期待して居つたのであります。殊に細菌學．病理學及臨牀方面の三方面から之を研究致して．さうして「サノクリジン」なるものの眞價を突止めたのであります。と申すのは．迂濶り致すと斯樣な藥は．得て營利を目的とする藥屋や．或は醫者の中にも逸早く斯ういふものを一手に輸入し金儲けをする．人間の生命はどうなつても宜いから金さへ儲ければ宜いと云ふ人間が．その當時相當あつたやうに考へましたので．その當時の內務省にも相談致して．研究の濟むまでは絕對的に此藥の輸入を許さないと云ふ事の下に．三年程掛つて此研究をして頂いたのであります。不幸にして此「サノクリジン」なるものは發見者の申すやうなそれ程の大した藥でないと云ふことが判りまして．幸に日本の金を外國に持つて行かれるといふやうなことが先づ止まり．また此藥の濫用といふやうなことが未然に防がれまして．國家の爲め消極的ではあるけれども．傳研．北研の協力研究の結果は非常に好い成績を得たと私は感じて居つたのであります。加之年來相反目し合つた傳染病研究所と北里研究所が．學問的に協力をし斯樣な共同研究を致したと云ふことは．之は兩研究所の爲のみならず．また日本の學界の爲に特に好い標本を示すものだと思つて．吾々ひそかに北島先生や秦博士等と相語つて喜んだのであります。斯樣な工合に致して昔は反目致したところの兩研究所が段々と相提携することになりまして．本日は．特に吾々北里研究所の者も御招待を蒙りまして此席末に列することを得たことは．私の寔に本懷とするところであります。恐らく地下に居られる北里先生も微笑んで居られることと思ふのであります。此處には多數の御若い研究のことに御携りになる皆さん方が．御出になつて居りますが．どうか今後とも相携へて．ケチな根性を出さずに．共同研究に邁進して．學問上のことは遠慮なく相爭ふやうに致したいと私は考へて居るのであります。どうか諸君も御協力を願ひまして．日本の爲め．また廣くは東亞共榮圈內に住む十億の民衆の爲に．醫療の恩惠に浴されることに致したいと思ふのであります。之を以て私の御挨拶に代へます。(拍手)

志賀潔先生 今日は御招待に預りまして有難うございます。何か名前の話が出て居りましたが、私も一寸申上げます。どうも何んですね、頭文字を羅馬字で書くとKのみであとがない、ですからして、聽き知つて居る人は、私が潔だと云ふと、イヤさうではない志賀潔だと云ふ、どうも之は辯明の仕樣がない。獨逸に居つた時に志賀といふのがあるが彼は一體君の名か。さうだ。成程君の名刺に依るとカー・シガと書いてあるが、君のファ・ナーメはクルーゼだらうと云ふ。(笑聲)。向ふは承知の上で言ふたのだらう、それから之はいかんと云ふので、私は「シガ」といふ次に「キョシ」と書くやうにして居ります。

先日各縣の衞生技師會議が開催されましたが、其時に恒例に依つて、此會に列席された各府縣の衞生課長と共に、一夕歡談を盡したことがありました。其時に三田村所長も御出席になりましたが、其時に三田村所長から次のやうな御話がありました。私は三田村所長の御話通り致しまするが、私に向つて「先生は天現寺のあの邊を、朝ブラブラ鞄を持つて、歩いて居るではないか」。「左樣でございます。大概歩く」。「天現寺から一寸入つた所に曲り角がある、其處で自動車に乘つて先生とひよつくり出會して危い所轢殺すところであつた。」と斯う云ふことでありました。私は實は新體制に依りまして、成るべく自宅を出まして北研に行きます、路が割合に閑靜で人通りが少いので、毎朝30分なり35分の路を歩いて居る。「イヤ實は毎朝歩くのだが、丁度30分35分といふ道程でマア20町位の所を、それを毎日歩いて居る。併しながら歸路は腹が空くから自動車で歸ることがある。」それから三田村所長は運轉手に「いま彼處に行かれた老人は當り前の爺さんではない。彼こそ赤痢菌の發見者である志賀さんといふ有名な學者である。アアいふ人を轢いてはいけない。」と云ふ。「さうでしたか、それならば何とか、轢くべからずとか何とか、書いたものでも胸にでも下げて歩いたら宜いではないか」、と運轉手が言つたさうでありました。(笑聲)序に三田村所長の言ふには、僕であつたから轢かずに濟んだ、傳染病研究所には約300人からの職員が居る、一度顔を出されてはどうか、さうでないと轢かれたときに誰が轢いたか判らぬと云ふ(笑聲)。所が6月1日には記念日で式をやる、是非御案内をするから出ろと云ふことでありました。そこで約束をしたのです。それから三田村所長の話では、研究所はお互にもとのことを棄て提携しやうぢやないか、段々日本の學界も發展して行くやうであるから、從來のやうな態度では自分はいかんと思ふからして此際にもつと學者らしいところの態度で行きたい、それには色々計畫もあるが、マア兎に角他を排斥してといふやうな風に思はれることは甚だ心外である、今度からはさうでなしに、官立は官立の態度でやつて、官立の本當の眞意を發揮しやうではないか、と云ふやうな打融けた學者の御話であつたので、私は非常に共鳴致しました。それは洵に結構だと云ふので、6月1日には是非伺ひますと、斯ういふ御約束をした。御案内狀を見てから後で考へて見ますと、10時から式があつてそれから御馳走が出て其後に所内を參觀する、偖てこの6月1日といふのは興亞奉公日であるが、どういふ風な御馳走があるかといふことを多少心配して參りました。マア官僚式の堂々たる御馳走があるか、今日のやうな質素な御馳走か、といふことを多少頭に有つて今日來たのであります。所が今も御話がございましたが態々研究所から米を配給して今日に相應しい御辨當を頂戴致した譯であります。一體過去25年間私は此門の前を時々通過致しまして、門の外からして覗きまして、何となしに威壓を感じました。どうも入つて見ようといふ氣にならなかつた。所が今日入つて見ますと、第一に今申しましたやうな三田村所長の御話で、非常に頭が輕くなつて來て、さうしてもう輕い氣持で入つて來たのであります。入つて來ると、堂々たる建物に依つて、威壓を感じるだらうかと心配したのでありますが、今日はさういふ心配なしに輕い氣分で以て參られたのであります。而して式場に臨みまして所長の式辭を拜聽し、また諸君が多數の方々が集まられて、如何にも傳染病研究所傳統的の精神に依る一家團欒的の狀態を拜見致して、洵に愉快に感じたのであります。今日はさういふ風な氣分で出ましたので、5年前から6月1日を以て此處の記念日と定められたさうでありますが、洵に之は相應しいのであります。又所謂共存共榮の實を擧げなければならぬ今日の時期でありまして、一致協力益々國務の爲に研究の爲に努力せねばならぬ時でありますので、先日所長からして御話がありましたところの洵に打融けた學者の態度に私は大いに共鳴致して、今日は喜んで參上致した譯であります。今日の式場乃至はこの和かなる此處の午餐會を拜見致して、洵に欣幸の至りに堪へぬのであります。一寸御挨拶を申します。(拍手)

眞鍋嘉一郎先生 今日私は斯んな思ひがけない好い氣持のことは未だ曾てないのであります。と云ふのは，私には傳研は母校であります．移管當時其處からお拂箱を喰つた人間であります．無用の人間であると云ふので山川總長より傳研に言つて傳研から辭職勸告を受けてお拂箱になつた人間であります。その辭職勸告を受けてお拂箱になつた奉公人が今日また此處に參つて此宴席に坐つて此處で一言御話を申すやうな斯ういふ仕合を得ましたのも．矢張六十以上長命をして居つた御陛だと思つて．死ぬる時分に少し思ひを輕くして死ねるやうな氣持が致しました。實は今北島先生から致して移管當時の御考を御述べになりましたが．私は移管當時は外國に居つたのでその時分の實戰の狀況を知らないのであります(笑聲)。此源平の戰がありましたときに．どちらへ行きましても中々勢が强くございまして．容易に果さなかつたのであります。併し私は幸にしてその實戰を見ない爲に源氏も平家も兩方に對しての感が鈍いのであります。加之野口博士と紐育に於て．紐育の日本人會館で移管問題に對する感想を演說を致しました。その演說はどうも遠方から觀て居るとどちらが正しいか判らないけれども．私が其時にした演說は．公平に觀て．政府の方針が了解出來ぬ．又之に使はれる靑山先生も少し考が足りないではなかつたか．と云ふ一場の講演をやりました。所が歸つて見ますと．私が日本に歸らぬ前に．私が移管問題と云ふことで紐育でしました演說の詳細が．私よりも前に靑山先生の耳に達して居りました。それから歸りましてから後に．毎日靑山先生が敎室に私を呼んで傳研移管の顚末を毎日話されました。けれども．其時に私に向つて．靑山先生は．お前は紐育で乃公の惡口を言つたではないか．と云ふことを一言も出さない。それが先生の偉い所であつて．さうして靑山先生が私に傳研で勉强しろと云ふ。私は．靑山先生に私がやつた演說が通じて居るとは知らぬから．平氣で質問をズンズン靑山先生に發するのであります。其時に三日四日毎日話された。私は傳研へ行きたくはありませぬ．併しながら靑山先生からは私に傳研に行けと云ふが心から行く氣になれなかつた。手傳に行けと云ふなら參りませうと云ふ譯で．それで私は此處へは人足の積りで入つたのです。それが併し激戰の餘波が中々收まりませぬでしたが．この北研の言ふことにも理窟があり．また傳研の言ふことにも理窟がある。私は自分でその實戰を觀ないからして比較的公平のものとして考へた。或るとき靑山先生は．北里研究所が感作「ワクチン」を造るときに．．アレは．北里が金儲けをする爲に．感作「ワクチン」といふ名前を付けて金儲けをするのだ．と云はれました。金儲けの考があるといふことを先生は切りに言ひましたから．先生感作「ワクチン」といふものは．之は北里先生の金儲けから考へたのではありませぬ．パスツールの「アンナル」に書いてあります．それをアナタ先生がさう仰有つては實に困りますと申して．パスツールの「アンナール」を出しました．感作「ワクチン」はパスツール研究所で既に造つて居るではありませぬか．それを北里研究所に持つて來て金儲けの考で造つたのではありませぬ．それが先生がさういふことを仰有つては．北里先生の名譽を害しますから．その發言を止して下さいと云つて先生と大いに爭ひました。さういふ風で此人足も中々公平にやつて居る積りであります。

また北里研究所の開所式が立派にありまして．さうして案內されました。所が私は斯ういふ暢氣な者であるからして．思つた儘に私は喜んで開所式に行つて．前の方に坐りまして．原總理大臣や淸浦さんや三宅秀先生や皆の演說を聽きまして．隨分傳研の惡口を言はれたことを聽いて居ります。その時に淸浦さんは．何が出來るものか．彼れは樂器があつても傳研には本當の音は出ませぬ．と斯ういふ風に言はれたのでありまして．さういふ風に私は彼方此方へと步き廻り．一寸言ふと「スパイ」ですね(笑聲)．けれども學問の爲には「スパイ」になつて．さうして本當にやらなければならぬと云ふので始終考へて居りまして北里研究所に居られた方とは始終往復してやつて居りました。

又大學の方で一番惱ましましたのは林先生であります．林先生には隨分難儀を掛けました．林先生の言ふことを聽かぬ。傳研へ「オフィチェール」に足踏みをしましたのは．勸當を受けてから．今日が始めてであります。大正7年以來「オフィチェール」に足踏をしたことは今日始めてであります。それは病人の見舞などで折り折りコソコソと入つて來ますけれども‥‥(笑聲)けれどももう殆ど用が濟んだら歸るといふ鹽梅であつたのです。さういふ風で私は野口英世博士の居るときに．此兩研究所の問題に就いて．野口英世博士も．之はどうもならぬが．之は協力しなければならぬがと．云ふので切りに野口博士も心配致して居り．靑山先生も．野口博士が北里研究所

の方を先きに觀て傳研を觀に來ないと云ふので．大變青山先生が．氣を揉んで．どうか傳研の方も北里研究所並に觀てやるやうにして呉れぬか．と云うて．度々野口さんの所へ私を使に遣りました。野口さんは．乃公は決して兩研究所の區別をする考はないけれども．觀た後は怖いから．乃公は觀ないのだと云ふ。それで兩研究所．北里研究所と傳研の研究との比較―「クリティック」をしなければならぬ．さういふことをしてはいかぬと云ふので．そんな「クリティック」をしたならば此二つの融合が出來ず．反つて自分に依つて融合が出來なくなるから乃公はそれを考へて北里研究所を觀たけれどもまだ傳研に觀に行かない．傳研を觀に行くときには一番歸る前に觀に行きます。どうしたのだ．北里研究所を先きに觀て傳研を後廻しにしたことはどういふ譯だ．と云ふたならば．それは此二つの研究所が將來共同する爲めに最も之は國家大事な遠大の心である．若し兩方一緒に觀たときに．僕が「クリティック」をするならば．此二つの溝が益々深くなる．だから僕が．兩研究所を觀た判斷を世間に發表する暇がないときに．一番後から觀たならば．誰も僕の意見に不同意を言ふ者はない．さうしたならば．さういふことをする爲に吾々は出發の間際に觀て先生に默つて歸る。その意思は．野口が行つて．兩研究所の溝を深くしてはいかぬ．と云ふやうな遠大の心からして．野口博士はさういふやうな手段に出たのであります。之を見ても兩研究所が溝を造らないやうにするといふことは．一つは野口博士の年來の思想であつたのであります．

さういふ譯でありましたので．私も今日は此處へ來る筈はなかつた．實は御斷りをしたのであります．所が私は昨晩大病人があつて．病人を診に行くのに．この研究所の式を無視しては行かぬと云ふので．急に參りましたので．さうして參ると今日斯ういふ和かな．呉越同舟どころか．今度は呉越が共同されてやると云ふ實に麗はしいことでありまして．私の感情も少し緩んだのであります。私も之から大手を振つて此處へ來られることになりましたので．今日此お悦びを申して．さうして今迄お世話になりました殊に林前所長の私に對する多大の御愍情を感謝して．今日の皆さんの慰みと致します。（拍手）

二木謙三先生　口の御馳走に滿腹し．また耳の御馳走にも滿腹致しました。其後で何かと云ふことであるが何も言ふことがない．今日は洵によき記念日で御目出度い記念日であつた。それからどうか益々研究を續けて．御國を救ふて頂きたいといふことを御願ひをするのであります。

もう一つ私は不思議なことを感ずる．どういふことかと云ふと．榮養研究所が盛んになつて國民の榮養が惡くなり．體位が低下するとは之れ何んぞ。傳染病研究所が盛んになつて．斯く燦爛たる業績を擧げられるに拘らず．傳染病の數が昔から段々增して．病院は建てゝも建てゝも熄まぬ。それから結核研究とか厚生科學研究とかゞ始まつても結核患者の「ベット」を增さなければ收容しきらぬとは之何んぞ。道路が平坦になつて足が弱くなり．照明が光つて眼が惡くなるとは是何んぞ。斯ういふことをどうか各研究所が聯合研究をして吾輩に敎へて頂きたい。吾輩はまだ30年は生きるから．その研究の結果を待つて考慮したいのであります。

お仕舞ひにもう一言．之は恐らくは研究する人と．それから熱意を有つて居る人と．それから權力を有つて居る人が別々になつて居るから斯うなつて居る。研究する人が分つて居る．偖て之を實行する熱意ある人が少い．それも法學士が權力を有つて居る．之が大きな間違であります。厚生大臣でも衛生局長でも全部が醫科出身者を以て研究に知識に富んだ人が大臣にもなり總理大臣にもなつて．日本を救はなければ此問題は解決出來ないかと思ふが．他に解決の仕方があつたならば待つて居りますから敎へて頂きたい。（拍手）

長谷川所員　私共は二木先生に依つて最後の活を入れられまして．來年の6月1日迄二木先生の最後の御言葉を忘れなく進みたいと思ひます。尙此和かな會合を續けることを吾々は熱望いたしておりますが．殘念乍ら丁度豫定の時間になりました。けれども尙ほ御希望の方がございましたならばどうか飛入りで結構でございます―ございませぬですか―　ございませぬければ．最後に三田村所長の發聲で傳染病研究所の萬歲を三唱致して，解散致したいと思ひます。（滿場拍手起る）

（全員起立．三村田所長發聲「傳染病研究所萬歲」を三唱．一同之に和す）

雜　報

傳染病研究所記念日

6月1日ハ吾々ノ研究所ノ42周年ノ記念日ニ當ルノデ三田村所長以下全員之ガ準備ニ忙殺サレタ。氣遣レタ當日ノ天候モ小細雨ノ程度デ時々晴間モミセタ。當日ハ下記ノ如ク午前10時カラノ式典ニ始マリ記念撮影．晝食．所內見學及ビ文化映畫等ガ催サレ午後5時半頃無事終了シタ。今度ノ記念日ニ於テ持筆ニ値スルコトハ久シク傳研ヲ訪レラレナカツタ諸先生．殊ニ北里研究所ノ諸先生ガ多數御出席下サイマシテ和氣靄々裡ニ一日ヲ過シタコトデアリ兩研究所ガ學問ノ爲メニ互ニ協力ショウトスル氣運ガ明ラカニ認メラレタコトデアル。

來賓トシテ元所長．厚生科學研究所長．北里研究所長．並ニ幹部及ビ本所ノ知名ノ舊職員ヲ御招待申シ上ゲタ所左記ノ諸先生ノ出席ヲ辱クシタ。(五十音順)

池田　錫	石原　喜久太郎
內野仙一	加藤義夫
神山能寶留	川島好兼
城井尙義	北島多一
西澤行藏	佐藤　清
志賀　潔	田宮貞亮
西尾憲三	入田善之進
林　春雄	二木謙三
松山陸郎	眞鍋嘉一郎
宮島幹之助	村田正太
入木澤しげ(故入木澤軍醫正未亡人)	
山田テイ(故山田信一郎博士未亡人)	

記念式ハ午前十時ヨリ左記ノ順序ニテ行ハレタ

一．開　式

一．君ケ代二唱

一．宮城遙拜

一．出征軍人ニ對スル感謝並ニ戰歿將士慰靈ノ爲メ默禱

一．所長式辭

一．來賓祝辭

一．閉　式

來賓祝辭トシテ別紙ノ如ク林．北島兩先生ノ祝辭ガアツタ．式終了後正面玄關ニ於テ記念撮影ヲナシ．後．食堂ニ於テ記念午餐會ガアツタ。尙ソノ席上別項ノ如ク長谷川所員司會ノ下ニ宮島．志賀．眞鍋及ビ二木ノ諸先生ノ御話ガアツタガ傳研移管以來漂ツテ居タ微妙ナ雰圍氣ガ一時ニ退散シ明朗化シタヤウニ思ハレタ．食後所內參觀ガアツタ．

所內參觀ノ陳列目錄ハ左記通リデアツタ。

三　階

第1室　食品防疫研究

第2室　「カラアザール」病研究標本．「マラリヤ」研究標本

第3室　「フチオコール」．「ラパノン」．「エンベリン」．「オキシヒノン」．「ツベルクロデアミン」酸等ノ化學製品供覽

第4室　結核菌「ツベルクリン」B. C. G. 供覽　肺炎菌免疫血清

第5室　先天黴毒ニ關スル實驗標本．癩ノ動物實驗ノ標本

二　階

第6室　「トラコーマ」ノ病原體所究

第7室　精製痘苗．赤痢診斷及ビ治療血清．猩紅熱治療血清及ビ豫防液

第8室　恙蟲病病原體ノ研究　流行性腦炎病原體ノ研究

第9室　「インフルエンザ」ノ病原體研究．消毒藥檢定法．「ザルモネラ」分離法．肺炎菌診斷法

第10室　癩ノ動物實驗

一　階

第11室　當所發賣血清「ワクチン」診斷液標本

第12室　微生物ノ變異ノ研究．異項環「スルファニールアミド」ノ化學療法

第13室　各種「ワクチン」製造工程一覽．ソノ他製造ニ關スル器具

第14室　傳研普通痘苗ノ製造工程．各國痘苗．狂犬豫防液製造工程

午後三時ヨリ講堂ニ於テ下記ノ「プログラム」ニヨ

リ映畫會ヲ行ハレタ.

一. 朝日グラフ(ニウス)

二. 或日ノ干潟(文化映畫)

三. 水產日本

四. 蘭印(文化映畫)

五. ロツパノ御父サン

定刻以前カラ傳研附近ノ子供等ガ友ヲ誘ツテ多數集リ記念日ニ相應シイ一時ヲ過シタ.

春秋會ノ遠足

春秋會ノ遠足ハ從來春秋ノ2回ニ行レ. 東京附近ノ適當ナ場所ハ今日マデ殆ンド行キ盡サレタノデ. 今年ハ春秋ノ遠足ヲ1回トシ比較的遠イ日光ヲ選ンダ. 早朝午前6時頃雷門ヲ出發シ. 夕刻歸宅ノ豫定デアルガ參加者ガ330餘人ノ多數ニ及ンダ. 最初ハ5月25日ノ日曜ニ決行スル豫定デアツタ爲メ. 皆サンガ色々準備シ當日早朝雷門マデ多數集ツタガ降雨ノ爲メ中止トナツタ. 次イデ6月8日ニ決行ト定メタ. 當日ハ晴天ニ惠マレ東照宮拜觀. 帝大附屬植物園デノ晝食. 中禪寺湖畔ト新綠ノ日光ヲ滿喫スルコトガ出來タ. 但シ華嚴ノ瀧ニ水ガナクテ物足リナイ感ジヲ與ヘタ. 往復電車ノ超滿員ニハダートナツタ. 一行ノウチニハ新綠ニ浮レテ奥日光湯本マデノシタモノモアツタト後日物語ニ聞イタ.

學術集談會

6月19日(木)午後1時ヨリ本所講堂ニ於テ學術集談會ガ催サレ. 演題ハ次ノ通リデアツタ.

1. Convallamarin 添加培養ニヨリ生ズル變異性結核菌ニ就テ　河野重成君
2. 結核罹患海猽體內ニ產生セル結核菌發育阻止物質ニ就テ　桑嶋鎌夫君　村田恭造君
3. 結核感染海猽ノ「ツベルクリン」反應陽轉時ニ於ケル新知見　桑嶋鎌夫君
4. 米國寄生蟲學會ノ趨勢　石井信太郎君
5. 魚類「インシュリン」ニ關スル研究　遠山祐三君　鐵本總吾君　福屋三郎君　山田修藏君
6. 北支ニ於ケル阿片問題ニ就テ　高木逸麿君

尙7月及ビ8月ハ例年ノ如ク學術集談會ヲ休ミマスガ9月ニハ再ビ開キマス。

學友會へ寄附

金28圓70錢	須賀井忠男君
金24圓63錢	羽田正一君
金12圓32錢	八田貞義君 大橋久治君 龜山良一君
金46圓79錢	橋浦友義君

人事異動報告

昭和16. 7. 2現在

月	日	辭令	官職	氏名
5.	26	依願免本官	技手	諏訪紀夫
5.	31	傳染病研究所業務ヲ囑託シ手當一ケ月金六拾圓給與		田島正典
6.	4	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		横森由仲
6.	10	任東京帝國大學助教授敍高等官六等	熱帶醫學研究所技師	長野泰一
6.	10	本俸九級俸下賜補傳染病研究所員所員職務俸金五百圓下賜	東京帝國大學助教授	長野泰一

學友會會則の改正に就いて

新體制ニ共に傳染病研究所學友會會則も改正せられ下記の如く新に作られました。多數の諸先生先輩の方々に評議員をお願ひいたしましたが何卒宜しくお願ひいたします。新傳染病研究所學友會々則が昭和16年6月1日から施行されますから大正6年の傳染病研究所學友會雜誌第1年に掲載してあります舊學友會會則及びその都度役員に任命され多年御盡力下さいました諸先生先輩各位の役員も自然解消するこゝになります何卒御承知下さい。

傳染病研究所學友會々則

第1章 名 稱

第1條 本會ハ傳染病研究所學友會ト稱ス

第2章 目的及事業

第2條 本會ハ傳染病學ニ關スル理論的研究竝ニ其ノ應用ノ發達ヲ促シ併セテ會員相互ノ親睦ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第3條 本會ハ前條ノ目的達成ノ爲メ左記ノ事業ヲ行フ

1. 實驗醫學雜誌ノ發行竝ニ其他ノ出版
2. 學術集談會．講演會．懇親會等ノ開催
3. 其他本會ノ目的達成ニ資スル事業

第3章 會 員

第4條 本會會員ハ傳染病研究所關係者(現舊．職員．研究生及講習生)ヲ以テ組織ス

會員ヲ分チテ甲種會員及乙種會員トス

實驗醫學雜誌ノ配布ヲ希望スル者ヲ甲種會員トシ其他ノ者ヲ乙種會員トス

第5條 會員タラントスル者ハ住所．氏名．職業ヲ記シ本會事務所ニ申込ムベシ

第6條 會員ニシテ本會ノ名譽ヲ毀損シ其他不都合ノ行爲アリタルトキハ理事會ノ決議ニ依リテ除名スルコトアルベシ

第4章 役 員

第7條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會 長	1 名
評議員	若干名
理 事	若干名
幹 事	若干名

第8條 會長ハ傳染病研究所長トス

會長ハ本會ヲ統理ス

第9條 評議員ハ會員中ヨリ會長之ヲ依囑ス

第10條　評議員ハ會長ノ諮問ニ應ジ重要ナル事項ヲ審議ス．理事ハ評議員中ヨリ會長之ヲ依囑ス

理事ハ理事會ヲ組織シ．會長ヲ補佐シテ事務ヲ遂行ス

庶務．會計．編輯竝ニ集會ニ關シテハ主任理事ヲ置キ．會長之ヲ依囑ス

第11條　幹事ハ會員中ヨリ會長之ヲ依囑ス

幹事ハ庶務．會計．編輯竝ニ集會ノ事務ヲ分掌ス

第12條　役員ノ任期ハ3ケ年トス．但重任ヲ妨ゲズ

第13條　會長ハ必要ニ應ジ委員若干名ヲ囑託シ集會及ビ編輯其他ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

第5章　學術集談會及實驗醫學雜誌

第14條　本會ハ概ネ每月1回學術集談會ヲ開催ス

第15條　本會ハ每月1回實驗醫學雜誌ヲ發行シ甲種會員ニ配布ス

會員以外ノ者ニシテ購讀ヲ希望スル者ニハ定價ヲ以テ頒布ス

第6章　會　計

第16條　會員ノ會費ハ甲種會員ニアリテハ年額6圓トシ．乙種會員ニアリテハ年額1圓又ハ一時金15圓トス

第17條　本會ノ經費ハ會費．雜誌及出版物ノ賣上金竝ニ理事會ノ承認シタル寄附金ヲ以テ之ヲ支辨ス

第18條　本會ノ事業年度ハ曆年度トス

第19條　會計主任理事ハ每年12月中ニ翌年度ノ豫算案ヲ作成シ理事會ニ提出スベシ

第20條　會計主任理事ハ每年度經過後1ケ月以內ニ決算報告書ヲ作成シ理事會ニ提出スベシ

第7章　附　則

第21條　本會ハ事務所ヲ傳染病研究所內ニ置ク

第22條　本會則ハ理事會ノ決議ヲ經ルニアラザレバ之ヲ變更スルコトヲ得ズ

第23條　本會則ハ昭和16年6月1日ヨリ施行ス

學友會評議員　○印ハ理事(五十音順)

○淺野三千三	赤塚京治	阿部俊男	○石井信太郎	石原喜久太郎
石光薫	石川憲夫	今村荒男	井口乘海	井上善十郎
內野豐生	內野仙一	遠藤繁清	太田正雄	太田原豐一
大山西一	大角眞入	大島金光	小栗一好	小田俊郎
岡治道	岡本啓	岡西順二郎	岡田增右衞門	○川喜田愛郎
川島好兼	勝俣稔	加藤義夫	梶塚隆二	片山久壽賴
笠井久雄	菅野拓三	○北岡正見	城井尙義	岸田秋彥
北野政次	黑屋政彥	栗本珍彥	工藤祐三	○小島三郎
佐藤秀三	佐藤清	坂口康藏	西澤行藏	清水萬之助
清水文彥	柴田敏夫	柴田信	進藤宙二	○高木逸磨
○田宮猛雄	田宮貞亮	田澤鐐二	田村義貫	竹內松次郎

谷口膽二　高村庄太郎　武田德晴　鯛瀨國一　月江曹元
○遠山祐三　○長野泰一　長與又郎　中村敬三　中村豐
中村拓　中原和郎　南崎雄七　並河才三　西尾憲三
野邊地慶三　八田善之進　八田貞義　林春雄　林亥之助
○長谷川秀治　○羽里彦左衞門　○檜山兼次郎　二木謙三　藤田宗一
○細谷省吾　松山陸郎　松本榮　松波兎逸　松浦光清
眞鍋嘉一郎　眞柄正直　○宮川米次　宮澤國丸　村田正太
村島鐵男　柳澤謙　○矢追秀武　○山極三郎　山岸精實
横手千代之助　吉村市郎　渡邊漸

庶務會計　理事　檜山兼次郎　幹事　飯塚悌太郎
編輯　理事　小島三郎　幹事　川喜田愛郎　金澤謙一　鈴木松郎
集會　理事　長谷川秀治　幹事　北岡正見

25巻（8号） 1941

雜 報

學友會へ寄附

金 9 圓 98 錢也	小島三郎君 大橋久治君
金 9 圓 54 錢也	飯高孔君
金 12 圓 77 錢也	福見秀雄君
金 56 圓 15 錢也	清水文彦君
金 52 圓 83 錢也	新井三九雄君
金 20 圓 16 錢也	川瀬五郎君

人事異動報告

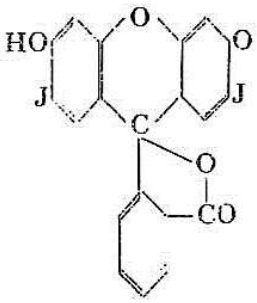
昭 16. 8. 4 現在

月 日	辭 令	官職	氏 名
6. 30	研究生退學		寺岡辰
6. 30	依願免本官	技手	西下止夫
7. 1	陞敍高等官三等	技師	山極三郎
7. 3	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		安中輝彦
7. 7	同		福田雅夫
7. 12	研究生入學許可		三木征治
7. 18	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		鴨脚光增
7. 25	同		宮村守人
7. 25	研究生退學		同人
7. 25	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		野上鐵雄
7. 25	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		平山毅
7. 31	同		遠藤庄三
7. 30	中華民國ヘ出張ヲ命ス	教授	宮川米次
8. 1	研究生入學許可		黑岩政次
8. 1	同		瀨川宏

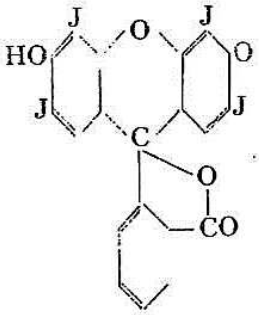
井上論文正誤表（實驗醫學雜誌．第25卷．第6號）

609 頁第 1 表中ノ Erythrosin

誤



正



	誤	正
609 頁上ヨリ 12 行目	第一項	第一節
612 頁第 5 表中	Mescurochrom	Mercurochrom
616 頁第 1 表中ノ比色%欄 11 行目	0.00960	0.00900
同頁第 2 表同欄下ヨリ 6 行目	0.00289	0.00280

25巻.(95) 1941

注射ニヨツタガ．在院約1ケ月ニシテ死ノ轉歸ヲトツタ。剖檢ノ結果．膵臓頭部ノラ氏嶋癌並ニ所屬淋巴腺及ビ肝臓ノ轉移．鬱血性肺炎．副腎組織ノ增生等ガ認メラレタ．肝臓轉移竈ノ癌細胞ガ膵臓ニ於ケルモノヨリモ．分化幼若ニシテ．增殖急劇ナリシ事ヨリ推シテ．コノ例ノ低血糖症狀ハ主トシテ肝臓轉移竈カラ產生サレタル「インシュリン」類似物質ノ作用デアラウト。（羽田）

乳兒「ズルファピリヂン」無尿症ノ1例

Anuria for ninety-six hours in a two year old infant following sulfapyridine therapy. Wilson, C. L., & Billingsley, C. B, J. A. M. A. Vol. 117. No. 4. 1941. p. 285–286.

2歲ノ肺炎患兒ニ3時間每投與ニヨツテ1.5瓦ノ「ズルファピリヂン」ヲ服用セシメタル所．48時間．完全ナル無尿狀態トナツタ。著者ハ之ヲ知ラズニ．更ニ3瓦服用セシメタルニ患兒ハ急性尿毒症ノ症狀ヲ表シ．危險狀態ニ陷ツタガ輸尿管「カテーテル」插入ニヨリ．之ヲ救フ事ヲ得タ。無尿ノ原因ハ．「アセチル」化「ズルファピリヂン」ノ結晶ニヨル輸尿管下部ノ閉塞デアツタ。「ズルファピリヂン」投與ニ當ツテハ．同量ノ重曹ヲ伍用シ．尿ヲ常ニ「アルカリ」性ニ保ツタガ．終ニ結石沈降ヲ防ギ得ナカツタ。（羽田）

雜 報

長與先生ノ御逝去

吾々ガ常ニ尊敬シ．恩師デアリ．慈父デアラセラレタ長與先生ガ去ル8月16日他界サレタ。64歲トイフ若サデ多クノ人々カラ惜マレナガラ逝去サレタノデアル．先生ニツイテハ本號ノ卷頭ニ於テ三田村所長ガ弔詞ヲ述ベテ居ラレルカラ此處ニ繰返シ述ベル必要ハナイガ先生ガ男爵ニ敍セラレタ15日ニ．先生ハ枕頭ニ集ツタ方々ノ一人一人ヲ召サレ御別レノ言葉ヲ述ベラレ．劇的場面ガ展開サレタ由承ツタ。巨星地ニ陷チ．長與先生今ヤコノ世ニ居ラレナイガ．長與先生ノ御精神ハ常ニ吾々ニ鞭撻ト指導ヲ與ヘルデアラウ。吾々ハ長與先生ノ御逝去ヲ惜ムト共ニ先生ノ御遺訓ヲ遵奉シ．長與先生常ニコノ世ニ在リト考ヘソノ職域ニ奉公スベキダト考ヘル。

學友會へ寄附

一金10圓38錢也	小島國康君
一金10圓82錢也	鐵本總吾君
一金7圓29錢也	林阿安君
一金99圓25錢也	菅原芝郎君
一金16圓2錢也	五十嵐正治君
一金16圓57錢也	岡本啓君
一金181圓25錢也	田中哲之助君

人事移動報告

昭16．9．3現在

發令月日	辭令	官職	氏名
7．8	敍勳六等授瑞寶章	技師	矢追秀武
8．1	研究生入學許可		柳澤溪
8．4	任熱帶醫學研究所技師 敍高等官六等	技手	桑嶋謙夫

以上

25巻

「実験医学雑誌」、25巻、~~9号~~、1941

9号

故長與又郎博士略歷

明治11年4月6日	長與專齋ノ三男トシテ東京ニ生マル
明治37年12月26日	東京帝國大學醫科大學卒業
同 38年3月3日	任東京帝國大學醫科大學助手（病理學教室勤務）
同 40年7月15日	病理學研究ノ爲獨逸國ニ留學，同42年6月歸朝
同 43年2月2日	任東京帝國大學醫科大學助教授
同 年4月26日	病理學病理解剖學第二講座分擔ヲ命ス
同 年6月13日	癌研究會理事ヲ囑託セラル
同 44年6月26日	醫學博士ノ學位ヲ授ケラル
同 年11月28日	任東京帝國大學醫科大學教授
同 年同月同日	病理學病理解剖學第二講座擔任ヲ命ス
同 45年1月25日	臨時脚氣病調査會委員被仰付
大正3年11月5日	兼任傳染病研究所技師
同 8年6月4日	補傳染病研究所長
同 9年11月25日	學術研究會議會員被仰付
同 10年6月24日	バタビヤ，支那，滿洲ヘ出張ヲ命ス（第四回極東熱帶醫學會出席竝ニ支那ニ於ケル醫事衛生視察ノ爲）
同 11年11月11日	東京帝國大學評議員ヲ命ス
同 12年1月25日	醫學教育視察ノ爲米國ヘ出張ヲ命ス（ロックフエラー財團ノ招聘ニヨル）
同 14年3月16日	青島，濟南，北京及奉天ヘ出張ヲ命ス
昭和3年3月26日	歐洲各國ヘ出張ヲ命ス（瑞西ジュネーヴニ開催ノ國際聯盟主催衛生委員會竝ニ丁抹國コペンハーゲンニ開催ノ同主催黴毒血清診斷法ニ關スル協議會ニ出席，及學術上取調ノ爲英，獨，佛，和，伊ノ各國ヘ）
同 4年10月3日	ブラジル共和國醫學士院海外會員ニ推薦セラル
同 年12月24日	支那ヘ出張ヲ命ス（支那衛生狀態ニ關シ國際聯盟衛生部長ライヒマン氏ト協議ノ爲）
同 5年11月19日	公衆衛生技術官訓練機關設立準備委員ヲ囑託セラル
同 8年4月25日	補東京帝國大學醫學部長
同 年11月17日	財團法人癌研究會理事ヲ囑託セラル
同 年同月同日	同會會頭ヲ囑託セラル
同 年11月17日	同會附屬癌研究所長ヲ囑託セラル
同 9年2月1日	依願免傳染病研究所長
同 年12月27日	任東京帝國大學總長
同 11年12月28日	帝國學士院會員被仰付
同 13年4月5日	第十一回日本醫學會會頭ニ推薦セラル
同 年6月20日	傷兵保護院顧問被仰付
同 年11月8日	依願免本官（東京帝國大學總長）
同 年11月24日	敍正三位
同 年12月28日	東京帝國大學名譽教授ノ名稱ヲ授ケラル
同 14年1月24日	御講書始ノ御儀ニ洋書ルードルフ，ウィルヒョウノ細胞病理學說ヲ御進講申上グ
同 年3月8日	獨逸自然科學アカデミー名譽會員ニ推薦セラル
同 年5月25日	財團法人結核豫防會理事ヲ囑託セラル
同 年10月6日	同會附屬結核研究所長ヲ囑託セラル
同 16年8月15日	依勳功特授男爵
同 年8月16日	敍勳一等授瑞寶章
同 年同月同日	薨去

長與又郎先生を憶ふ

昭和16年8月16日．日本の醫學界は償ひ難い大きい損失を受けました。われ等の長與又郎先生は．この朝．午前2時23分．僅かに2ヶ月の．しかし．苦惱に充ちた病ののちに．64歳で．この世を去られました。傳染病研究所に關係のある我々は．古きものも．新しきものも．擧ぞつて．この餘りにも思ひがけない出來ごゝに對して．限りない悲歎ゝ．拭ひ難い痛惜ゝのために．暗い思で胸のつまるのを覺えたのであります。

長與先生は．大正3年．我が傳染病研究所の文部省への移管ゝ共に．本所に入られ．爾來昭和5年に至るまで病理學部長ゝして．更に．大正8年6月から昭和9年2月まで所長ゝして．15年の長きに亙つて．或は研究に．或は經營に．撓まない努力を傾注され．輝かしくも．また榮ある成果を擧げられました．我が傳染病研究所が今日あるのは．先生に俟つゝころが多いのであります。

いま．ここに．我が研究所に對する先生の功績の一つ一つを數へ擧げますまい。しかし．先生が．大正4年から昭和8年に至る．18年間に亙る不斷の研究によつて．成し遂げられた恙蟲病に關する業績は．何時までも．我が研究所の誇ゝして．その光輝を學界に放つて止まないでせう。また．先生が．或は先生自身の研究に當つて．或は門弟の指導に當つて．絶えず我々に示された純眞で且つ熱烈な好學の態度．獨創的で且つ大局を洞察する直觀力．營々ゝして倦むこゝのない砥礪ゝ努力．公平で且つ徹底的な思索ゝ批判．一つゝして．後進の我々を導き．勵まし．鞭撻しないものはないのであります。

卓絶した研究者．また比類ない經營者であられた先生は．同時にまた．偉大な人であられました。先生は我々に．正義人道を崇び．淸廉潔白を重んずべきこゝを敎へ．人を容れ．免し．且つ愛し．更に己を捨てて公に奉ずべきこゝを身を以て．示されました．

願はくば．先生在天の靈．永久に我等の衷に生きて．我が傳染病研究所を學ゝ德に充ち溢れた殿堂たらしめんこゝを。

傳染病研究所長　三田村篤志郎

実驗医学雑誌 25巻. 1941年 P1283—1288 (10号)

雜　　報

學術集談會

7—8月ニ休ンダ學術集談會ハ9月18日(木)午後1時カラ本所講堂ニ於テ再ビ開催サレタ。演題ハ次ノ通リデアツタ。

1. α-「メチル」-α′-「ノルマルデチルー」琥珀酸ノ合成　亀田幸雄君
2. 「アガリチン」酸及ビ「ノルカペラート」酸ノ熱分解ニ就テ　亀田幸雄君
3. 「ヂフテリア」ノ被働性並ビニ能働性免疫ニ關スル實驗的研究(續報)　永井吉郎君　中村精子君　久保田久君
4. 「ズルフォンアミド」劑ノ抗「マラリア」性ニ關スル實驗的研究　石井信太郎君
5. 「ズルフォンアミド」劑ノ作用機轉ニ關スル研究　長谷川秀治君　小泉豐君
6. 「ビスコクラウリン」型「アルカロイド」類ノ作用機轉ニ關スル研究　長谷川秀治君　東風睦之君　篠塚徹君　宮村守人君　藤井健三君

學友會ヘ寄附

金90圓35錢也	井上幸市君
金41圓87錢也	後藤敏夫君
金153圓77錢也	蓑茂上君

人事異動報告

昭. 16. 10. 1 現在

月日	辭令	官職	氏名
8. 1	陞敍高等官五等	助教授	長野泰一
9.11	傳染病研究業務ヲ囑託ス	從七位	矢島嘉清
9.11	臺灣ヘ出張ヲ命ス(基隆ヘ)	技手	鐵本總吾
	學術上取調ノ爲 自9月23日 至10月12日 20日間		
9.16	研究生入學許可		平野英之助
6.16	右同		八辻環
9.16	右同		川端豐作
9.20	研究生退學許可		安尾義人
9.22	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		東風睦之
10. 4	應召	研究生	平野英之助
10. 4	應召	雇	安藤武次郎

林論文正誤表(實驗醫學雜誌第25卷第9號 P 1083～1096)

頁	行	誤	正
1086	上ヨリ14	2 m.n.d.	2 m.l.d.
1087	上ヨリ 1	4 m.n.d.	4 m.l.d.
〃	上ヨリ 4	5 m n.d.	5 m.l.d.
〃	第12表中(右下部)	No. 28 $\frac{2}{6}$ $\frac{6}{6}$ $\frac{6}{6}$	No. 28 $\frac{2}{6}$ $\frac{2}{6}$ $\frac{6}{6}$

25 巻 (113) 1941

雜　　報

防空防火ノ演習

國際間ノ逼迫ト時局ノ重大性ニ鑑ミ．吾々傳研デモ特設防護團ガ組織サレ．去ル10月16日(木)午後1時ヨリ正面玄關前ノ廣場ニ於テ三田村團長．田宮副團長指揮ノ下ニ燒夷彈ニヨル實地防火訓練ガ催サレタ。當日ハ高輪消防署カラ專門家ヲ招イテ指導ヲ仰イダ。5瓩ノ「エレクトロン」燒夷彈或ハ油脂燒夷彈ニ點火シ．炸裂發火スルトコロヲ防火班ハソレゾレ部署ニツキ．筵掛ハ水ニ浸シタ筵ヲ持ツテ勇敢ニ火焰ニ近キコレヲ蔽ヒ．砂掛ハ砂ヲ掛ケ．「ポンプ」掛ハ「ポンプ」ヲ押シ．之ヲ鎭火セシメタ。吾々ガコノ實地訓練カラ會得シタコトハ．燒夷彈ノ落下ヲ早期ニ見ツケ水浸シニシタ筵或ハ布團ヲ以ツテ之ヲ蔽フコトガ最初ニナサルベキ最モ效果的ナ措置デアルト言フコトデアル。

春秋會歡送迎會

去ル10月23日(木)午後3時カラ傳研地階食堂ニ於テ左記ノ諸君ノ歡送迎會ヲ開催シタ。

永年吾ガ傳研ノ爲メニ御盡力下サイマシタ佐藤久藏君ハ北京ノ同仁會デ高木先生ノ下デ重要任務ニオ就ニナリ．市川行正君ハ千葉縣技師ニ榮轉サレ．諏訪紀夫君ハ更ニ研鑽ヲオ積ミニナル爲メ東大病理ニ轉ゼラレタ。是等ノ方々ノ今後ノ御發展ヲオ祈リスル次第デアル。

更ニ永イ間戰地デ御奉公中デアツタ中神清一君．鈴木勝治君及ビ中野豐策君ガ嚇々タル武勳ヲオ樹テニナツテ再ビ傳研ニオ歸ヘリニナツタ。戰地ノ御苦勞ヲ感謝スルト共ニ御歸還ノオ喜ビヲ申ス次第デアル。

故長與先生ノ追悼會

去ル10月27日(月)午後5時半カラ帝國ホテルニ於テ故長與先生ノ追悼會ガ開催サレタ。此度ノ追悼會ハ先生ガ御關係ニナツタ諸團體ガ相圖リ催サレタモノデ．各團體ノ代表者カラソレゾレ追悼ノ辭ガアツタガ．吾ガ傳研モソノ一團體トシテ．三田村所長ガ代表シテ追悼ノ辭ヲ捧ゲタ。食卓演說デ長岡半太郎先生ガ長與家ノ歷史ヲオ物語リニナツタガ特ニ傾聽ニ値シタ。何レニシテモ各方面ノ名士多數相集リ巨人長與先生ヲ偲ブニ相應シイ會デアツタ。

學術集談會

去ル10月23日(木)午後1時カラ當所講堂ニ於テ學術集談會ガ催サレタ。今後吾々ノ知識ヲ廣ク求メル爲メ．時々吾々ノ專門以外ノ分野ニ於ケル大家ニ乞フテ綜說ヲオ願ヒスルコトニナリ．先ヅ植物「ホルモン」ノ權威デアル農學部ノ籔田教授ニオ願ヒシ．準備ヲススメテ居タガ．當日折惡シク農學部教授會開催ノ爲メ中止ノ已ムナキニ至ツタ。尙大橋君カラ流行性感冒ニ關スル演題ノ申込ミガアツタガ．當日發熱ノ爲メ．次回マデ延期スルコトニナツタ。從ツテ演題ハ次ギノ4ツデアツタ。

1. 「ヂフテリー」菌培養濾液及ビ其菌體成分ノ劃分　　中村孝一君
2. 健康「マウス」ノ赤痢菌ニ對スル抵抗力ノ季節的消長ト一，二考按　　矢追秀武君
3. 「ビタミン」B_1ノ實驗的日本流行性腦炎症ニ對スル效果ニ就テ　　矢追秀武君　荒川清二君
4. 「ビタミン」B_2ノ免疫體產生ニ及ボス特異作用ニ就テ　　矢追秀武君

學友會ヘ寄附

一金	13圓55錢也	村田恭造君
〃	13圓80錢也	五十嵐正治君
〃	32圓93錢也	林阿安君
〃	67圓85錢也	寺岡辰君
〃	20圓59錢也	安倍胤一君
〃	61圓37錢也	田中繼雄君
〃	43圓71錢也	蛯名勝四郎君
〃	26圓81錢也	桑島謙夫君

人事異動報告

昭和16．11．5現在

月日	辭令	官職	氏名
9．30	研究生退學許可		羽田一重
10．1	研究生入學許可		豐田哲夫

10. 1	依願免本官	技手	市川行正
10. 7	研究生入學許可		石綿修
10. 8	傳染病研究所業務ヲ囑託ス		羽田一重
〃	研究生入學許可		高橋一
10. 9	任傳染病研究所技手給六級俸		龜田幸雄
〃	任傳染病研究所技手給月俸金70圓		田中哲之助
〃	任傳染病研究所技手給月俸金60圓		利部光四郎
〃	任傳染病研究所技手給九級俸		今野龜之助
〃	傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		龜田幸雄
			田中哲之助
			利部光四郎
			今野龜之助
〃	傳染病研究所業務ヲ囑託シ手當1ヶ月金60圓給與		中神清一
〃	傳染病研究業務ヲ囑託シ手當1ヶ月金50圓給與		長谷純一
〃	傳染病研究所業務ヲ囑託シ手當1ヶ月金50圓給與		林阿安
10. 9	解雇	雇	中神清一
〃	解雇	雇	長谷純一
〃	解雇	雇	林阿安
10. 11	臺灣ヘ出張期間ノ延長ヲ命ス	技手	鐵本總吾
10. 21	卒去	囑託	井口乘海
10. 29	任千葉醫科大學教授敍高等官四等	助教授	羽里彦左衞門
〃	本俸六級俸下賜職務俸金1080圓下賜	千葉醫大教授	羽里彦左衞門
10. 30	京都．大阪愛知及石川ノ二府二縣下ヘ出張ヲ命ス（京都．大阪．名古屋及金澤ヘ）	教授	宮川米次
〃	大阪府下ヘ出張ヲ命ス(大阪市ヘ)	教授	三田村篤志郎
10. 31	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		關口安男
10. 31	依願傳染病研究所業務囑託ヲ解ク		巖田豐
〃	依願免本官	技手	佐藤久藏
11. 1	研究生入學許可		三上四郎

25卷（12号） 194

July. 12. 1941. p. 37-38.

アヂソン氏病ニ於テハ．血糖量ハ多クノ場合正常以下デアツテ．從ツテ糖尿病ヲ合併スル事ハ稀有ノ事トサレテキルガ．著者ハコヽニ從來報告サレタ14例ヲ簡單ニ紹介スルト共ニ最近 Bloomfield ニヨツテ提供サレタ1例ニツキ．經過並ニ剖檢所見ヲ詳述シテ居ル．32歳ノ主婦．家族歴中．糖尿病ノ素因ガ著明．定型的ナアヂソン氏病ニテ．診療中糖尿病ヲ併發．血糖量ハ最高 660 mg/dl ニモ達スルニ至ツタガ．治療ニヨツテ輕快．退院セシメタノデアルガ．誤ツテ「インシュリン」ノ過量ヲ注射シ．低血糖性痙攣ヲ起シテ死ニ至ツタ．剖檢所見ニ於テ副腎ト．ランゲルハンス氏島ノ萎縮ガ著明デアツタ．（羽田）

雜　報

學術集談會

去ル11月20日（木曜日）午後1時カラ本所講堂ニ於テ下記ノ通リ學術集談會ガ開催サレタ。

1. 大黒鼠ニ於ケル「サルモネラ」菌屬感染ノ細菌學的並ビニ病理組織學的研究　內田昌男君
1. 東京市民血清ノ流感病毒中和力ニ就テ　笠原順一郎君
1. 高級「アルキルマレイン」酸ノ合成　淺野三千三君　龜田幸雄君
1. Floculation ニ就テ（綜説）　大山西一君

學友會ヘ寄附金

金20圓54錢也　桑島謙夫君
金13圓42錢也　遠山祐三君
金12圓10錢也　村田恭造君
金20圓也　第89回講習生諸君
金9圓95錢也　石井信太郎君
金30圓82錢也　中村敬司君

人事異動報告

昭．16．12．5 現在

月日	辭令	官職	氏名
10.28	傳染病研究所業務ヲ囑託シ手當1ヶ月金60圓給與		田淵幸子
11. 5	研究生退學許可		長谷部一郎
11.20	依願免本官	技手	細井輝彦
11.22	兼任岐阜高等農林學校教授　敍高等官三等	技師	山極三郎
11.29	傳染病研究所業務ヲ囑託シ手當1ヶ年金1000圓ヲ給ス		羽里彦左衞門